

米国株厳選ファンド・ 豪ドルコース

追加型投信／海外／株式

第59期末（償還日 2020年2月10日）	
償還価額	10,236円53銭
純資産総額	22百万円
第54期～第59期	
騰落率	+17.0%
分配金合計	50円

*騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

◆運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

◆当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）については、以下の手順で閲覧およびダウンロードすることができます。

<閲覧方法>

<https://www.smd-am.co.jp/fund/unpo/>にアクセス→
ファンド名を入力→検索結果からファンドを選択

- 口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ
お取引のある販売会社へお問い合わせください。
- 運用報告書についてのお問い合わせ
フリーダイヤル 0120-88-2976
受付時間：午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）

第54期 2019年9月10日決算 第55期 2019年10月10日決算
第56期 2019年11月11日決算 第57期 2019年12月10日決算
第58期 2020年1月10日決算 第59期 2020年2月10日償還
作成対象期間（2019年8月14日～2020年2月10日）

受益者の皆様へ

毎々、格別のお引き立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

このたび「米国株厳選ファンド・豪ドルコース」は、信託約款の規定に基づき、2020年2月10日をもちまして信託を終了し、満期償還いたしました。

当ファンドは、主として円建て外国投資信託証券への投資を通じて、米国の株式を実質的な主要投資対象とするとともに、為替取引を行うことで信託財産の成長を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等と償還内容をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

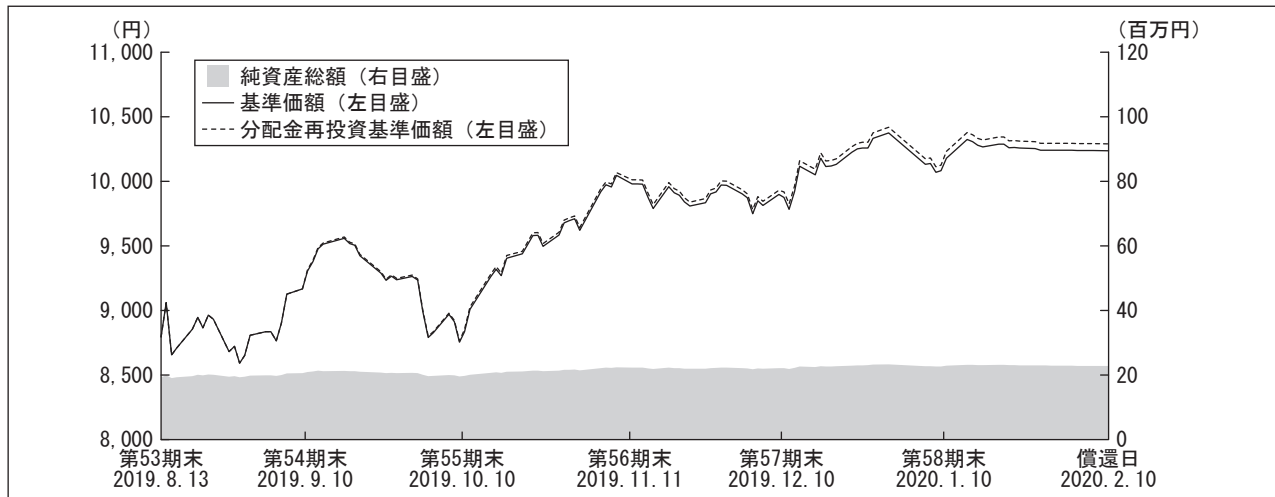


三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6228 東京都港区愛宕2-5-1
<https://www.smd-am.co.jp>

運用経過

【基準価額等の推移】



*当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

*分配金再投資基準価額は、作成期首の基準価額を基準に算出しております。

*分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

*分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

第54期首：8,795円

償還日：10,236円53銭（作成対象期間における期中分配金合計額 50円）

騰落率：+17.0%（分配金再投資ベース）

【基準価額の主な変動要因】

当ファンドは、US Value Equity Concentrated Fund AUD Classへの投資を通じて、米国の株式へ実質的に投資するとともに、為替取引を行いました。

（上昇要因）

バイオ医薬品メーカーのCelgeneの買収が完了して利益増が見込まれた、薬品会社のBristol-Myers Squibb Companyが上昇したことが要因となりました。銀行株のJPMorgan Chase & Co.やBank of America Corporationは、力強いファンダメンタルズ（基礎的条件）が評価され上昇したことも要因となりました。また、再生可能エネルギーにおける安定的な事業運営が評価され、電力会社のAES Corporationが上昇したことも要因となりました。

(下落要因)

業界全体での競合が激化し事業統合のもたつきなどから、Eコマース会社のQurate Retail, Inc.が苦戦したことが要因となりました。経営陣の交代などによりITサービス会社のTeradata Corporationも冴えませんでした。また、原油価格に左右されやすい油田サービス会社のTechnipFMC plcが、資産売却の詳細が投資家の混乱を招き、下落したことも要因となりました。

円/豪ドルの為替変動が基準価額の変動要因となりました。

【1万口当りの費用明細】

項目	第54期～第59期		項目の概要
	2019年8月14日～2020年2月10日		
	金額	比率	
信託報酬	67円	0.690%	信託報酬＝作成期中の平均基準価額×信託報酬率 作成期中の平均基準価額は9,728円です。
(投信会社)	(29)	(0.298)	ファンドの運用等の対価
(販売会社)	(37)	(0.379)	購入後の情報提供、運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(1)	(0.014)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
その他費用	0	0.000	その他費用＝作成期中のその他費用÷作成期中の平均受益権口数
(その他)	(0)	(0.000)	信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等
合計	67	0.690	

* 「比率」欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

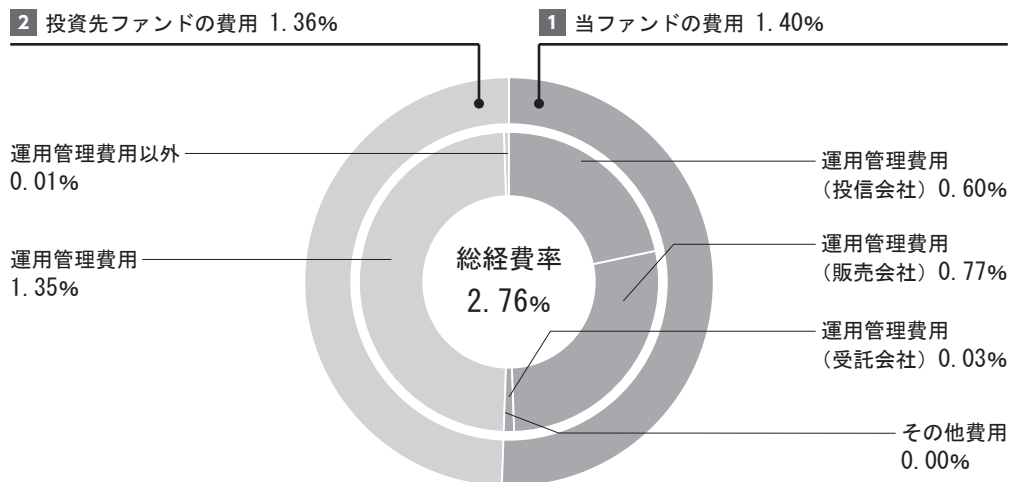
* 作成期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む。）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

なお、その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託受益証券が支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

* 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

* 各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

参考情報 総経費率（年率換算）



総経費率 (1 + 2)	2.76%
1 当ファンドの費用の比率	1.40%
投資先ファンドの運用管理費用の比率	1.35%
2 投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.01%

* **1**の各費用は、前掲「1万口当りの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値（小数点以下第2位未満を四捨五入）です。「1万口当りの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。

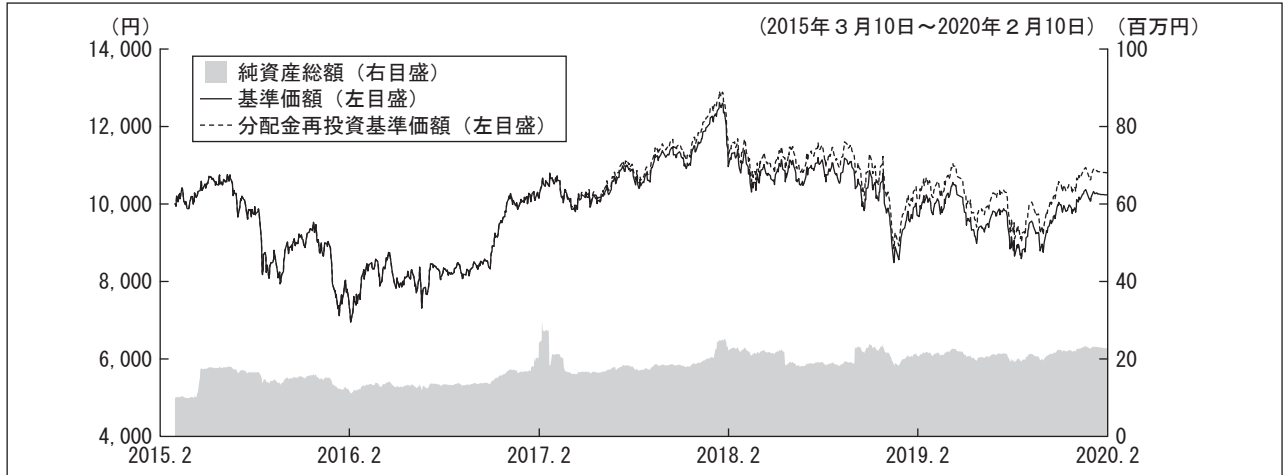
* **2**の投資先ファンド（当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く））の費用は、実際に投資しているクラスの費用が入手できないため、入手可能なファンド全体のデータをもとに平均投資比率を勘案して、実質的な費用を計算しています。

* **1**と**2**の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。

* 上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を作成期中の平均受益権口数に作成期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率換算）は2.76%です。

【最近5年間の基準価額等の推移】



*当ファンドの設定日(2015年3月10日)より表示しております。

*設定日の基準価額は設定価額を、純資産総額は当初設定元本を表示しております。

*当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

*分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

*分配金を再投資するかどうかについてはお客様ご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

	2015年3月10日 設定日	2016年2月10日 決算日	2017年2月10日 決算日	2018年2月13日 決算日	2019年2月12日 決算日	2020年2月10日 償還日
基準価額 (円)	10,000	7,284	10,285	11,191	9,674	10,236.53
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	20	240	200	110
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△27.2	41.5	11.2	△11.9	7.0
純資産総額 (百万円)	10	11	24	22	20	22

【投資環境】

当作成期、米国株は様々な逆風を克服して上昇しました。業種別では、情報技術、金融がリターン上位、不動産、素材が下位となりました。米中通商交渉は投資家心理を揺さぶりましたが、合意への期待が当作成期中に何度も株価最高値更新に寄与しました。ほかに、長短金利逆転、ヘルスケア、情報技術セクターへの政策／規制変更の可能性などが、投資家心理の重要なドライバーとなりました。当作成期終盤、中国での新型コロナウイルスの感染拡大は大きな懸念材料となりました。

当作成期、バリューストック株が好調な時期もありましたが、結局グロース株がバリューストック株をアウトパフォームしました。

国内短期金融市場では、作成期首-0.11%近辺でスタートした国庫短期証券3ヵ月物の利回りは、2019年9月末以降、年越え要因に絡む海外投資家の短期の国債への需要の高まり等を受けて-0.4%近辺まで低下した後、マイナス幅を大きく縮小し、-0.14%近辺で償還日を迎えました。

【ポートフォリオ】

■米国株厳選ファンド・豪ドルコース

主要投資対象であるUS Value Equity Concentrated Fund AUD Classを作成期を通じて組み入れました。その後、2020年2月の償還に向けて売却し、2020年2月10日に満期償還いたしました。

■US Value Equity Concentrated Fund AUD Class

S&P500種株価指数をアンダーパフォームしました。

業種別では、素材、金融、エネルギーの大幅なオーバーウェイト、情報技術、コミュニケーション・サービス、一般消費財・サービスの大幅なアンダーウェイトを維持しました。

売買（償還対応を除く）について、農業ソリューション会社化学のFMC Corporationからスピノフされたリチウム製造会社のLivent Corpを売却しました。

また、保有する米ドル建て資産に対し、米ドル売り、豪ドル買いの為替取引を行いました。

■マネー・マネジメント・マザーファンド

安全性と流動性を考慮し、短期の国債・政府保証債を中心とした運用を行いました。年限に関しては、残存6ヵ月以内の短期の国債・政府保証債を中心とした運用を継続しました。

※設定以来の運用経過につきましては、運用報告書（全体版）をご覧ください。

【ベンチマークとの差異】

当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

【分配金】

分配金は、分配可能額、基準価額水準等を勘案し、第54期～第58期の各期において10円とさせていただきます。(1万口当り税込み)

なお、第59期につきましては、償還のため、分配は行っておりません。

■分配原資の内訳

(1万口当り・税引前)

項目	第54期	第55期	第56期	第57期	第58期
	2019年8月14日 ～2019年9月10日	2019年9月11日 ～2019年10月10日	2019年10月11日 ～2019年11月11日	2019年11月12日 ～2019年12月10日	2019年12月11日 ～2020年1月10日
当期分配金 (円)	10	10	10	10	10
(対基準価額比率) (%)	0.11	0.11	0.10	0.10	0.10
当期の収益 (円)	—	—	—	—	—
当期の収益以外 (円)	10	10	10	10	10
翌期繰越分配対象額 (円)	3,083	3,073	3,063	3,053	3,043

※円未満を切り捨てしているため、「当期分配金」は「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計額と一致しない場合があります。

※当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

お知らせ

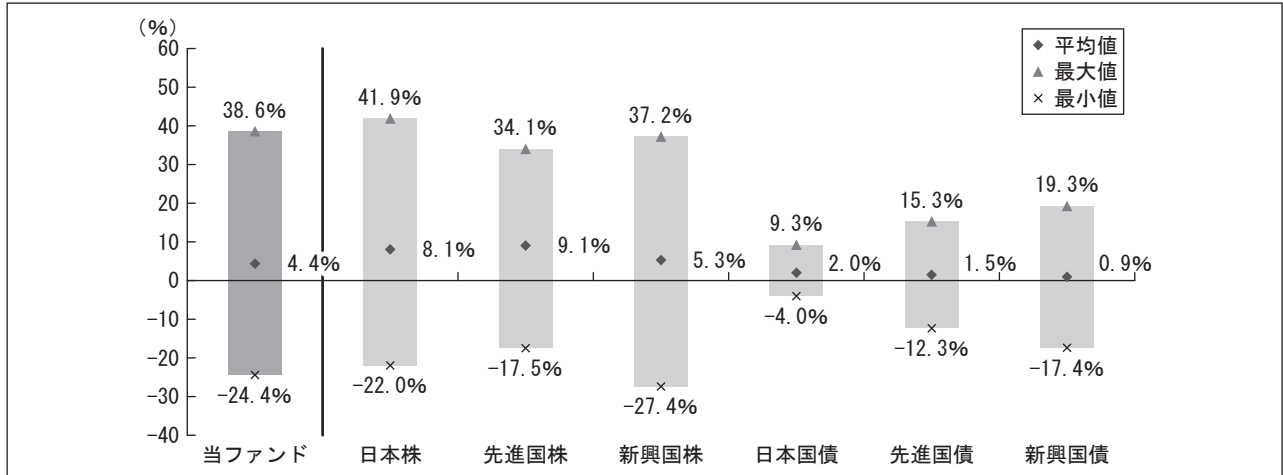
該当事項はございません。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	2015年3月10日～2020年2月10日（約5年）	
運用方針	主として円建て外国投資信託証券への投資を通じて、米国の株式を実質的な主要投資対象とするとともに、為替取引を行うことで信託財産の成長を目指して運用を行います。なお、親投資信託であるマネー・マネジメント・マザーファンド受益証券へも投資を行います。	
主要投資対象	当ファンド	<ul style="list-style-type: none"> ・US Value Equity Concentrated Fund AUD Class受益証券 ・マネー・マネジメント・マザーファンド受益証券
	US Value Equity Concentrated Fund AUD Class	<ul style="list-style-type: none"> ・米国の株式 ・為替取引の活用
	マネー・マネジメント・マザーファンド	本邦通貨建て公社債および短期金融商品等
当ファンドの運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。 ・主として米国の株式の中から、割安と判断される魅力的な銘柄に厳選して投資することで、信託財産の成長を目指します。 ・投資を行う外国投資信託証券においては、米国の株式に投資を行うとともに、米ドル売り、豪ドル買いの為替取引を行います。 	
分配方針	<p>毎月10日（休業日の場合は、翌営業日）の決算日に、分配金額は経費控除後の利子・配当収益および売買益（評価損益も含まれます。）等の中から、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託者が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には分配を行わないことがあります。</p> <p>*分配金自動再投資型の場合、分配金は税金を差し引いた後自動的に無手数料で再投資されます。</p>	

【当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較】

当ファンド：2016年3月～2020年1月
 代表的な資産クラス：2015年2月～2020年1月



●上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

*当ファンドと代表的な資産クラスのデータの期間が異なりますので、ご注意ください。

*全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

*当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

*騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

＜各資産クラスの指数について＞

資産クラス	指数名	権利者
日本株	TOPIX (配当込み)	株式会社東京証券取引所
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)	MSCI Inc.
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)	MSCI Inc.
日本国債	NOMURA-BPI国債	野村証券株式会社
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)	FTSE Fixed Income LLC
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド (円ベース)	J.P.Morgan Securities LLC

(注) 上記指数に関する著作権等の知的財産権およびその他一切の権利は、各権利者に帰属します。各権利者は、当ファンドの運用に関して一切の責任を負いません。

当該投資信託のデータ

《当該投資信託の組入資産の内容》

償還日現在、有価証券等の組み入れはありません。

【純資産等】

項目	第54期末	第55期末	第56期末	第57期末	第58期末	償還時
	2019年9月10日	2019年10月10日	2019年11月11日	2019年12月10日	2020年1月10日	2020年2月10日
純資産総額	20,937,761円	19,727,079円	22,280,461円	22,096,560円	22,868,190円	22,775,565円
受益権総口数	22,499,662口	22,325,468口	22,325,729口	22,373,015口	22,465,881口	22,249,301口
1万口当り基準価額（償還価額）	9,306円	8,836円	9,980円	9,876円	10,179円	10,236円53銭

* 当作成期間中における追加設定元本額は893,267円、同解約元本額は604,428円です。